

## 第24回 手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験） 「読取り通訳試験」問題（要約文）

### 「読取り」第1問「趣味」（要約文）

最近、週末を利用して趣味を楽しむ人が増えてきています。趣味活動で、仕事のストレスを分散させるのも大切なことなのでしょう。

私の趣味は、スキューバダイビング。その醍醐味は、海の中の景色、魚たちの美しさ、そして宇宙遊泳のような感覚の素晴らしさにあります。また、地上の喧騒とかけ離れた海の中の静寂な世界も良いものです。

海の中では音声による会話はできません。しかし、ろう者の私たちは、地上と同じように手話で会話ができます。

スキューバダイビングは、シュノーケリングとは違って、本格的な装備をつけて海中に深く潜ります。

スキューバダイビングは、10歳以上の人ならば誰でも楽しめます。私が出会った人は、60歳でライセンスをとり、68歳の今でもスキューバダイビングを楽しんでいます。

皆さんもやってみませんか。

### 「読取り」第2問「仲間」（要約文）

ろう協会と手話サークルが合同で忘年会を開きました。80人ほど集まったと思います。

忘年会の企画は、私が担当したのですが、司会をお願いしていた田中さんが、当日、なかなか姿をあらわさず、開始時刻ぎりぎりになってやっときました。

私は田中さんに、「もう始まるよ、司会をよろしく。」と言うと、彼は、「え、司会？ 聞いていないよ。」と言うのであわてて、「前に頼んだよ。」と言うと、彼は、「え、頼まれた？ いつ？」と全く覚えていない様子。私は、「理事会終了後の飲み会の時に頼んだら、わかったと言ってくれたよ。」と言ったのですが、彼は、「司会なんてできないよ。」と逃げてしまいました。

飲み会の時に頼んだ自分がいけなかったのだと反省をしながら他の人にあたってみたのですが、他に引き受け手がいないので、仕方なく私が司会をしました。

司会は、緊張するし、落ち着いて飲食ができないのでつらいなあと思っていたら、当の田中さんは皆と楽しそうに交流し食事しているので、「おい、俺の気持ちもわかってくれよ。」と言うと、田中さんは「わかった。」と言って、交代してくれました。やっと、ゆっくり、皆と交流することができました。

ろう協と手話サークルのみんなとは、いつも、市役所との交渉や署名活動など一緒に活動している仲間なので、忘年会では、楽しく交流したいですね。

余った忘年会会費は、アジアろう者友好基金に寄付することにしました。

## 第24回 手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験） 「聞き取り通訳試験」問題

### 第1問「オーロラツアー」

先日、夕食後、家族みんなでのんびりしていた時、以前から、「一生に一度でいいから、オーロラを見に行きたい。」と言っていた夫が、突然、「来年の冬に、みんなで、オーロラツアーに行こう。」と言った。

ちょうどその日、久しぶりにランチをした大学時代の友人から、ご夫婦で行ったオーロラツアーの土産話を聞いていたので、その偶然に驚いた。

子どもたちは、大はしゃぎ。「オーロラなら、カナダのイエローナイフっていう町が有名だよね。」と、地理の得意な中学一年の長男が言うと、「そうだよ。そこはね、オーロラベルトの真下で、いつも晴天なんだよ。」と、夫も大喜び。

すると、パソコンに向かっていた小学五年の二男が、「宇宙から見たオーロラの写真があるよ。」と、インターネットで一枚の写真を見つけた。

国際宇宙ステーションから撮影したとあり納得したが、近い将来、地上からだけでなく、宇宙空間からオーロラを眺めるツアーが企画されるかも知れないとの記事を読み、夢が膨らんだ。

### 第2問「アイ・コンタクト」

私の会社の同僚にITに詳しいろう者がいるのですが、彼は、バレーボールをやっていて、デフリンピック出場を目指しているそうです。

先日の昼休みにたまたま社員食堂で一緒になったので、以前から疑問に感じていた、ろう者はバレーボールでレフリーの笛の音がわからなくても問題はないのかということ、聞いてみました。

彼は、「そんなこと全く考えていなかった。練習も含めて試合では補聴器をつけないので、みんなほとんど音や声が耳に入らないけど、ろう者は目がいいから、周りの動きが視野に入るし、経験の中で、試合の流れや状況もわかってくるので、レフリーの笛の音は、あまり関係ないよ。」と答えてくれました。

「でも、健聴者は、試合中に声を掛け合いながらボールを回すよ。」という私に彼は、「ラリーが続くときはアイ・コンタクトで確認を取り合うしかないけど、もともと、目でコミュニケーションを取るのは、ろう者の方が得意だよ。」と爽やかに笑っていました。